

世界にひとつの ハンドメイド

調布市福祉作業所の手づくり製品の魅力

前 希望の家統括施設長 朝日敏幸さん
(令和4年2月取材時)



大人気!
くるくる希望の虹

調布市内の福祉作業所では、通所している利用者さんの手によって、様々な手づくり製品が作られています。事業所ごとに、作り手の能力を活かして、個性いっぱいの手づくり製品を作成し、市内の様々な場所で販売され、とても人気があります。福祉作業所で作られる手作り製品の魅力について、知的障がい者の生活介護施設 希望の家 統括施設長を令和4年3月まで務められた朝日敏幸さんにお話を伺いました。『調布市希望の家』は、昭和58年 富士見町に開所し調布市社会福祉協議会が運営を受託したのが始まりです。昭和50年代、『わたしたちも働けるんだ』との掛け声のもと、全国にたくさんの方の民間福祉作業所ができましたが、企業の下請けから始まった作業所の仕事は、徐々に利用者が楽しく、無理なく得意分野を活かすものに変化していきました。

希望の家はこれまでに、手作りのスウェーデン刺繍のポーチや機織りで作るマフラーやショール、木工、手漉き和紙、陶芸製品や七宝焼きのブローチ、焼き菓子づくりなど様々な製品を作成してきました。今は、生活介護事業として、ビーズなどのアクセサリや刺繍ポーチ、ナイロンたわしなどの自主製品づくりに取り込んでいます。

これ、いいね ☆

近年では、パラアートという言葉が浸透してきています。パラアートは、障がいのある方が作るアート作品、そして障がい者の芸術文化の振興と才能開発及び社会参加を促進させるための運動です。パラアートは個々の個性をアートという方法で表現し、障がいの有無に関係なく、観た人にその面白さを伝えます。誰が作ったのかは重要なことではない、その作品そのものに「これいいね!」と言える、そのことはとても自然で理想な形だと思います。

手づくり製品も同様に、そこには作り手の気持ちや努力が込められており、製品としての品質や価値が向上しているように感じています。希望の家では過去に、さをり織りのストールが1万円以上の値をつけて購入されたこともありました。もはや、障がいのある方が作ったことをアピールする時代は過ぎ、製品そのものを評価する時代になってきているのではないのでしょうか。その意識の変化は、障がいのある作り手たちへ、社会参加できるチャンスをもっとたくさん作ってくださることでしょう。



ちょっと
自慢...

過去には、チーズケーキ
がお菓子づくりコンテスト
『ユニバーサルベイキン
グカップ』銅メダルを
受賞しました!

※現在は販売していません



希望の家では、作り手の思いや、やりたいことを尊重し、無理なく、楽しく活動できるよう心がけてきました。指示された作業ではなく、自分たちが作りたいと思ったものを作る、その結果、対価として返ってくることを理想として、これまで試行錯誤しながら多くの製品を作り上げてきました。

失敗することもたくさんありましたが、工夫を凝らして作り上げてきた手づくり製品は皆さんの宝物です。これからも、障がいのある方が、平等に社会参加できる活動となるよう、継続していきたいと思っています。